
令和7年度全国学力・学習状況調査の 結果分析について

－野洲市の子どもたちの学力・生活実態－



野洲市教育委員会学務課
野洲市教育研究所

「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」
令和7年7月文部科学省・国立教育政策研究所
「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果 課題の改善に向けた取組の重点」
令和7年8月6日滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課 を参考に作成しています。

目次

- 1 令和7年度全国学力・学習状況調査の概要 p.2
- 2 教科に関する調査結果の概要 p.3
- 3 教科に関する調査結果 ー小学校ー p.4
 - (1) 国語 (2) 算数 (3) 理科
- 4 教科に関する調査結果 ー中学校ー p.13
 - (1) 国語 (2) 数学 (3) 理科
- 5 質問調査の結果 ー小学校・中学校ー p.23
 - (1) 非認知能力に関する項目
 - (2) 授業に関する項目
 - (3) 生活習慣に関する質問

集計方法と無回答がある関係で、
合計が100%にならないものがあります。
- 6 今後の取組のポイント p.26

調査の目的

野洲市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

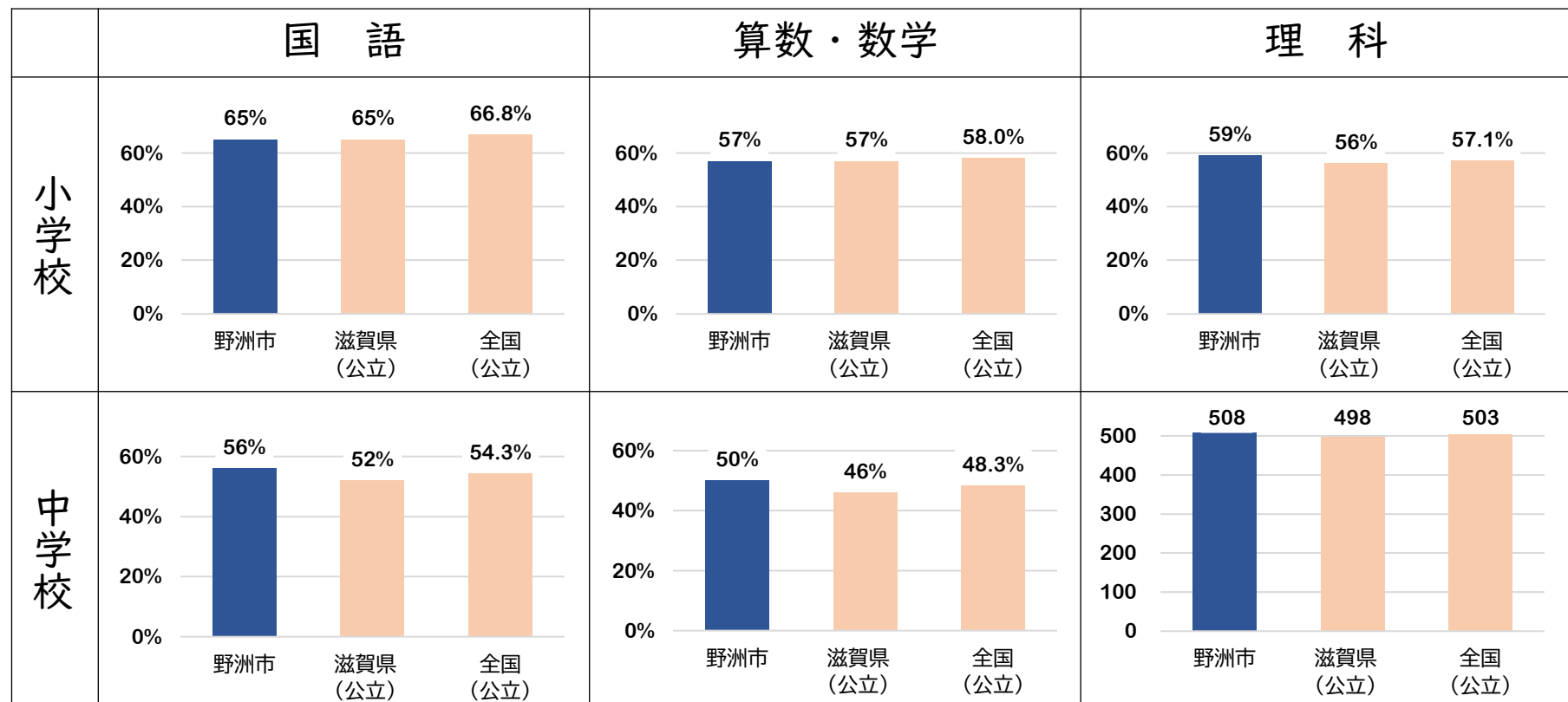
調査概要

調査実施日	令和7年4月17日（木） ＊質問調査、中学校理科は学校ごとに実施日が異なる
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、理科〕／質問調査
調査問題	<ul style="list-style-type: none">▶ 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。▶ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	<ul style="list-style-type: none">▶ CBT調査の導入（中学校理科）▶ 生徒質問でのランダム方式の試行▶ 多様な生徒の状況把握

2 教科に関する調査結果の概要

平均正答数 (平均正答率)	国語			算数・数学			理科		
	野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)	野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)	野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
小学校	9.2/14 (65%)	9.2/14 (65%)	9.4/14 (66.8%)	9.1/16 (57%)	9.1/16 (57%)	9.3/16 (58.0%)	10.1/17 (59%)	9.6/17 (56%)	9.7/17 (57.1%)
中学校	7.8/14 (56%)	7.3/14 (52%)	7.6/14 (54.3%)	7.5/15 (50%)	7.0/15 (46%)	7.2/15 (48.3%)	平均IRTスコア		
							508	498	503

*IRTスコアはIRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

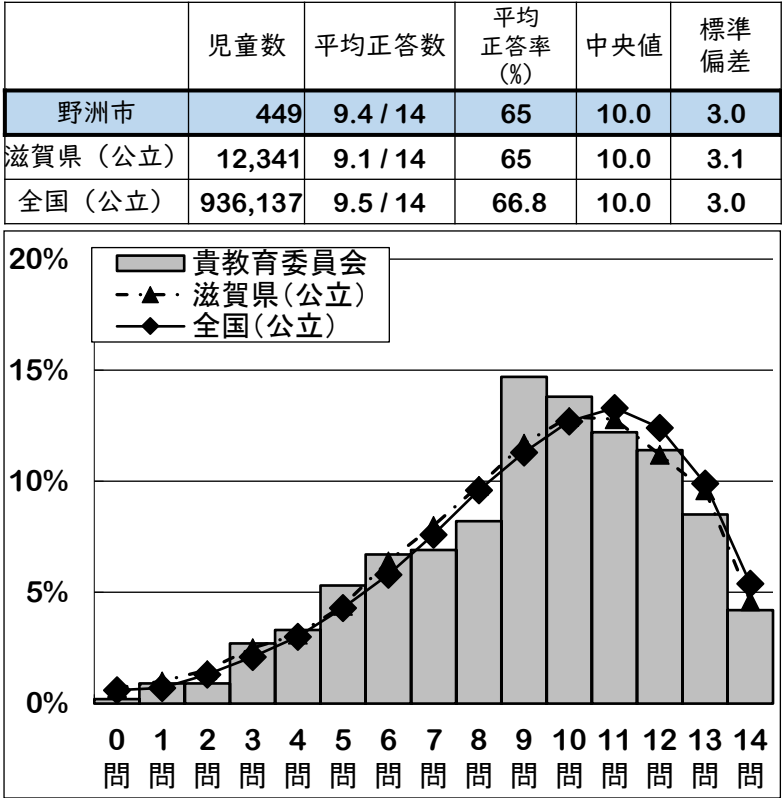


問題作成のポイント	<p>学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題されている。今年度は、</p> <p>●「話すこと・聞くこと」について、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題が出題された。</p> <p>●令和5年度までの調査で課題が見られた内容（「読むこと」文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること）について状況を確認するため、問題（大問3三）が出題された。</p>
-----------	---

＜分類・区分別集計結果＞

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	78.6	77.8	76.9
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	61.9	61.4	63.1
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	79.3	80.7	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.3	64.9	66.3
		B 書くこと	3	67.6	67.7	69.5
		C 読むこと	4	55.5	55.2	57.5
評価の観点	知識・技能	4	74.6	74.4	74.5	
	思考・判断・表現	10	61.7	61.9	63.8	
問題形式	選択式	9	62.8	63.1	64.7	
	短答式	2	79.6	78.6	78.5	
	記述式	2	56.1	56.1	58.8	

＜小学校国語の児童の正答数分布グラフ＞



野洲市小学生の正答率が高かった問題

＊全国と比較して

四 山田さんは、「ちらし」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の

相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

イあつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

2 四ア	正答率（％）	無解答率（％）
野洲市	82.6（+0.8）	4.7（-3.5）
全国（公立）	81.8	7.2
2 四イ	正答率（％）	無解答率（％）
野洲市	74.6（+2.5）	2.2（-2.1）
全国（公立）	72.1	4.3
正答	ア 好み イ 暑い	

出題の趣旨	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
解答結果より	学年別漢字配当表に示されている漢字を、文意に沿って適切に書くことができていると考えられる。

野洲市小学生の課題が見られた問題

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

(2) 木村さんは、「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、「資料2」、「資料3」、「資料4」に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 言葉の変化についてなっとくしたことを「資料1」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を「資料2」、「資料3」、「資料4」の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

3三(2)	正答率(%)	無解答率(%)
野洲市	54.3 (-2.0)	16.5 (+0.3)
全国(公立)	56.3	16.2
正答例	(例) 言葉は年月とともに変化するということになっとくしました。なぜなら、「新しい」という言葉が、奈良時代には「あらたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。	

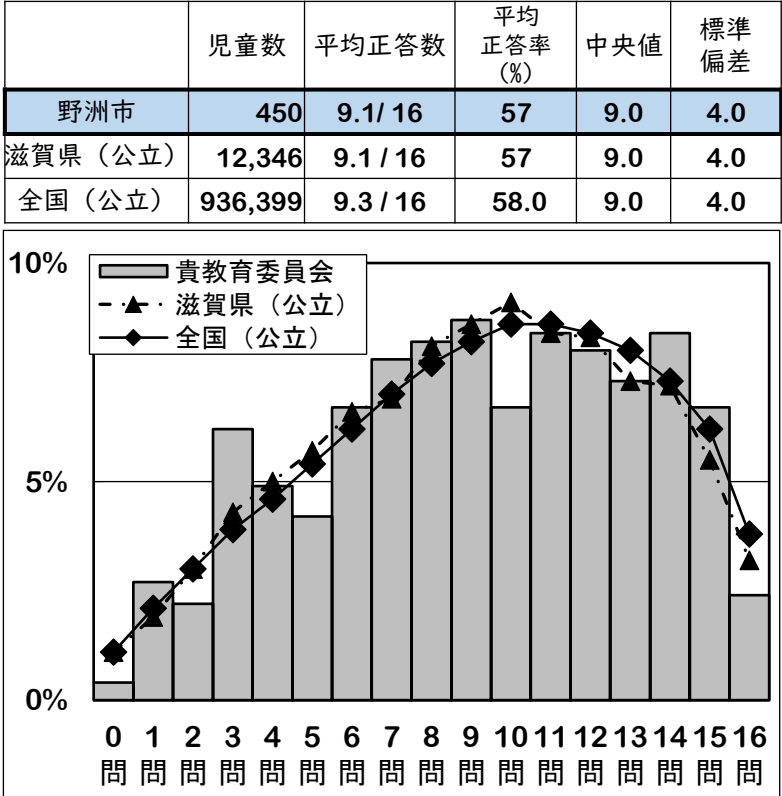
出題の趣旨	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
解答結果より	複数の資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりして、必要な情報を見付けて、自分の考えを記述することに課題があると考えられる。

問題作成のポイント	<p>学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈が重視されている。今年度は、</p> <p>●数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるかを問う問題が出題された。</p> <p>●日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見いだし、それらの関係について考察できるかを問う問題が出題された。</p> <p>●日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察できるかを問う問題が出題された。</p>
-----------	---

<分類・区分別集計結果>


分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.8	61.2	62.3
	B 図形	4	56.1	55.7	56.2
	C 測定	2	51.8	52.9	54.8
	C 変化と関係	3	54.8	54.9	57.5
	D データの活用	5	60.6	60.6	62.6
評価の観点	知識・技能	9	65.5	64.9	65.5
	思考・判断・表現	7	46.2	46.5	48.3
問題形式	選択式	6	65.9	66.2	67.2
	短答式	6	63.9	63.3	64.0
	記述式	4	33.6	33.1	34.9

<小学校算数の児童の正答数分布グラフ>



野洲市小学生の正答率が高かった問題

＊全国と比較して



ひろと

0.4は0.1の4個分、0.3は0.1の3個分です。
0.1を①として下の図のように表します。

0.4

①

①

①

①

0.1が4個

0.3

①

①

①

0.1が3個

0.4 + 0.3の計算は、0.1をもとにすると、4 + 3を使って考えることができます。

0.4 + 0.3は、0.1をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、0.4 + 0.05について同じようにまとめます。

0.4は ② の40個分、0.05は ② の5個分です。
0.4 + 0.05の計算は、 ② をもとにすると、40 + 5を使って考えることができます。

上の②にはすべて同じ数が入ります。②に入る数を書きましょう。

3 (1)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	77.3 (+3.2)	1.3 (-1.5)
全国 (公立)	74.1	2.8
正答	0.01	

出題の趣旨	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。
解答結果より	数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことができていると考えられる。

野洲市小学生の課題が見られた問題

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

3 (2)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	22.7 (-0.3)	12.9 (-2.8)
全国 (公立)	23.0	15.7
正答	$\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にするとき、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の9個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の8個分です。	

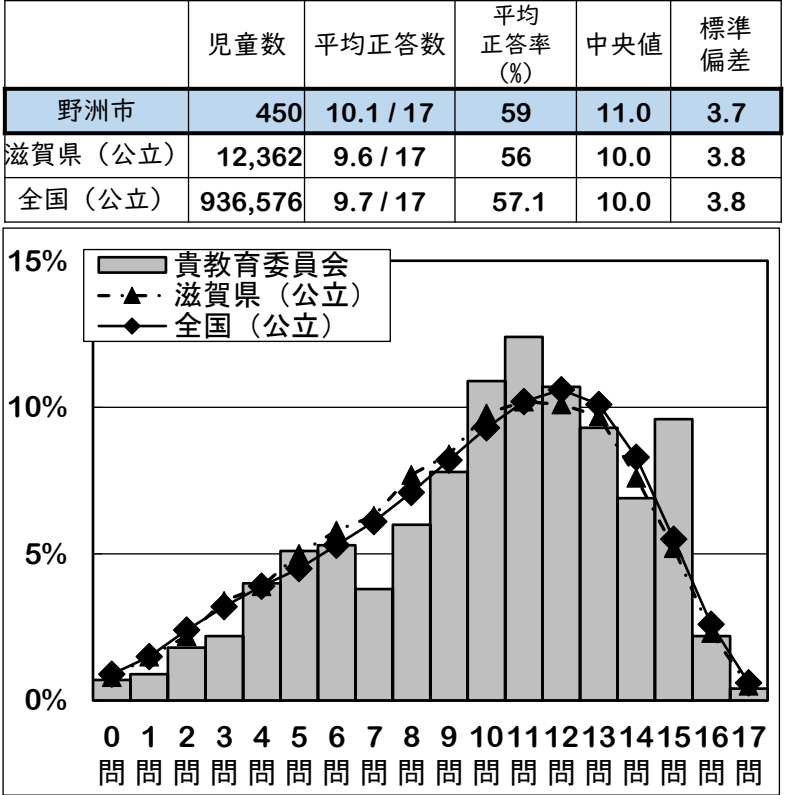
出題の趣旨	分数の加法について、共通する単位部分を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
解答結果より	数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察し、数や言葉を用いて記述することに課題が見られた。

問題作成のポイント	<p>学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の二つの内容区分から、バランスよく出題された。今年度は、</p> <p>●問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題が出題された。</p> <p>●事実的な知識を既有的知識と関係付けたり活用したりする中で概念的に理解しているかどうかをみる問題が出題された。</p> <p>●自然の事物・現象に働きかけることで得られた様々な情報について、要因や根拠を見いだすことや、観察、実験などの結果について、その傾向を見いだしたり、考察したりすることができるかどうかをみる問題が出題された。</p>
-----------	---

<分類・区分別集計結果>

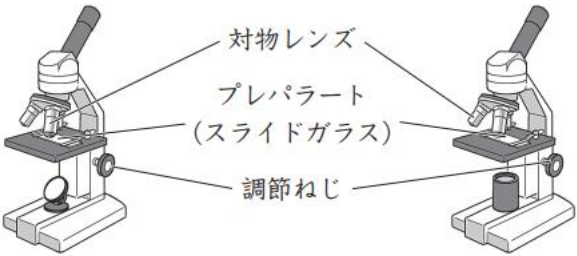
分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				野州市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	47.8	45.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	52.4	50.9	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	57.4	50.8	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.9	65.9	66.7
評価の観点	知識・技能		8	58.1	54.8	55.3
	思考・判断・表現		9	60.3	57.6	58.7
問題形式	選択式		11	56.8	54.1	54.7
	短答式		4	73.8	69.8	69.7
	記述式		2	43.4	41.7	45.2


<小学校理科の児童の正答数分布グラフ>



野洲市小学生の正答率が高かった問題

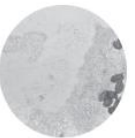

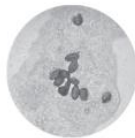
* 全国と比較して

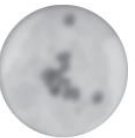

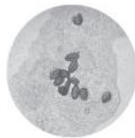
てるみさんたちは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することにしました。
 

けんび鏡きんぴきょうを操作すると、観察する物の見え方が変わるね。
 
 てるみ

(2) けんび鏡を操作したとき、**キ**と**ク**のように、操作する前と後で見え方が変化しました。**キ**と**ク**はどのような操作をしたのか、下の**1**から**4**の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。

操作する前
 操作した後

キ




ク




1 対物レンズをちがう倍率ばいりつのものにした
 2 プレパラートを動かした
 3 明るさを調節した
 4 調節ねじを回した

3 (2)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	77.8 (+7.1)	0.7 (-0.8)
全国 (公立)	70.7	1.5
正答	キ 2 ・ ク 4	

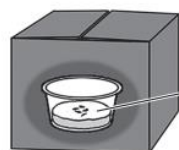
出題の趣旨	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身についているかどうかをみる。
解答結果より	キでは像を移動させるためにプレパラートを動かす、クでは像のピントを合わせるために調節ねじを回す操作について正しく捉えていることから、顕微鏡を操作し適切な像にするための技能が身に付いていると考えられる。

野洲市小学生の課題が見られた問題

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、一つも発芽しなかったよ。



しめらせた
だっし綿めん

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

3 (4)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	29.6 (-0.3)	7.1 (-4.3)
全国 (公立)	29.9	11.4
正答例	(例) レタスの種子が発芽するのに、日光は必要なのだろうか。	

出題の趣旨	レタスの種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができかどうかをみる。
解答結果より	種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見いだし、その内容を表現することに課題が見られた。

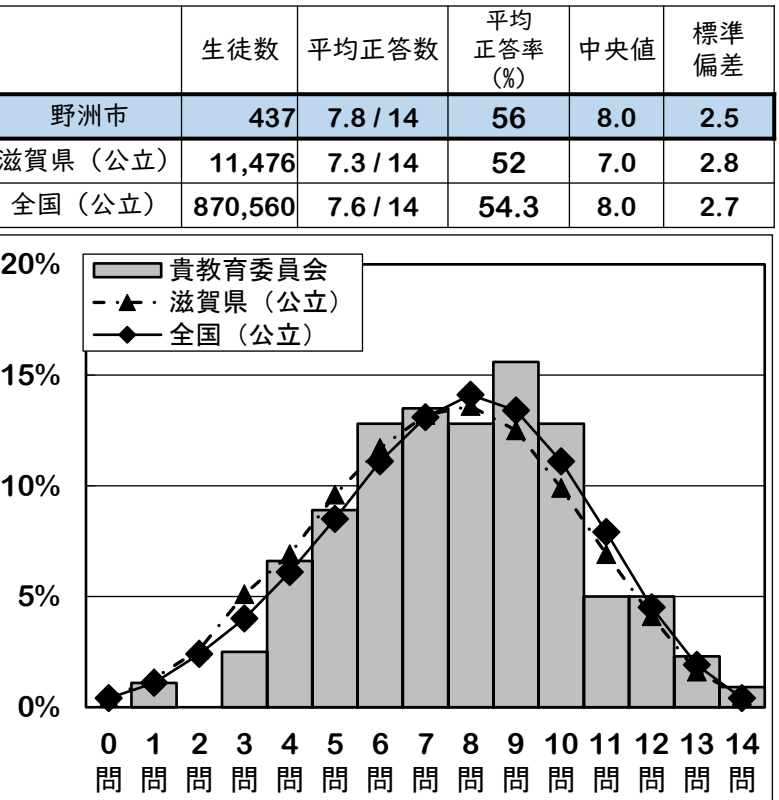
問題作成の
ポイント

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものが出題された。今年度は、
●過年度の調査結果に見られた課題等を踏まえ、話や文章の構成や展開について考えたり、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたりすることができるかどうかを問う問題をされた。

<分類・区分別集計結果>

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
				野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	46.5	46.0	48.1
		(2)情報の扱い方に関する事項	0	—	—	—
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	—	—	—
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	56.4	52.0	53.2
		B 書くこと	5	53.5	50.6	52.8
		C 読むこと	3	64.7	60.1	62.3
評価の観点	知識・技能	2	46.5	46.0	48.1	
	思考・判断・表現	12	57.3	53.4	55.3	
問題形式	選択式	8	65.5	62.2	63.9	
	短答式	2	77.8	72.1	73.6	
	記述式	4	25.1	23.0	25.3	

<中学校国語の生徒の正答数分布グラフ>



野洲市中学生の正答率が高かった問題

* 全国と比較して

2 村田さんは、国語の時間に、学校の活動を地域に広げるアイデアについてスピーチをする学習に取り組んでいます。村田さんは、青木さんとあなたにスピーチのリハーサルをしてもらい、助言を求めています。次の【村田さんのスピーチ】と、〈スライド①〉から〈スライド⑤〉までを読んで、あとの問いに答えなさい。

村田さん

青木さん

あなた

【村田さんのスピーチ】

私は、「マリープロジェクト」をもとにしたアイデアを考えました。

「マリープロジェクト」は、皆さんも知っているとおり、環境委員会が参加者を募って行っている、マリーゴールドを育てる活動です。参加したことがない人も、登下校のとき、きれいに咲いたマリーゴールドの花に、心が和んだこともあるのではないのでしょうか。マリーゴールドは、苗から育てることが多いのですが、この活動では、採取した種から育てています。

ここで、〈スライド①〉を提示

スライドに示したように、次の年、また次の年へとつながる、持続的な活動であることが、この活動の大きな特徴です。咲いた花を楽しむだけでなく、手入れをしながら成長を見守ることに魅力を感じ、私は、1年生のときからこの活動に参加しています。

ここで、〈スライド②〉を提示

これは、実際に採取したマリーゴールドの種です。次のシーズンに学校で育てる分を確保したあと、家でも育てたい参加者は種をもらって帰ります。私も、種をもらって、家族と一緒に育てています。ただ、

みんなが持ち帰ったとしても、採取した種は残ってしまいます。……あ、1年間で採取した種のうち、半分以上は残ってしまうのですよ。そこで、考えたのが、今行っている活動を発展させた「つなごうマリープロジェクト」です。

ここで、〈スライド③〉を提示

このプロジェクトの長所は、まず、残ってしまう種を活用できることです。そして、地域の方にも、花を育てる楽しさを味わってもらえます。しかも、マリーゴールドの種は毎年採取できるので、このプロジェクトも持続可能です。

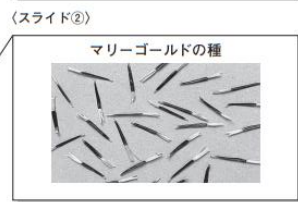
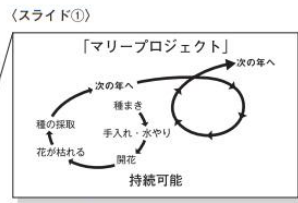
ここで、〈スライド④〉を提示

このプロジェクトの内容は、残った種を地域の希望する方にも配るというものです。例えば、地域の方が来校する学校行事や、私たちが参加する地域の行事などで配りたいと思います。育ててくださる地域の方のために、残った種から発芽しやすいものを選び、育て方のポイントを書いたカードと一緒に渡します。

ここで、〈スライド⑤〉を提示

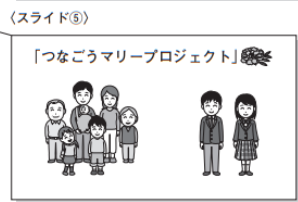
今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いますか。

これで、私の発表を終わります。



- 〈スライド③〉
- 「つなごうマリープロジェクト」の長所
- 残った種を活用できる
 - 地域の方にも楽しんでもらえる
- こちらも持続可能

- 〈スライド④〉
- 「つなごうマリープロジェクト」の内容
- 残った種を地域の希望者に配布
 - ・学校行事や地域の行事で
 - ・育て方のポイントを書いたカードを添えて



- 三 リハーサルのあと、青木さんは、「『つなごうマリープロジェクトの長所』の話と『つなごうマリープロジェクトの内容』の話の順序を入れ替えた方がよいと思います。」という助言をしました。その意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から1つ選びなさい。
- 1 村田さんが考えたプロジェクトの長所は、プロジェクトの内容を把握してから聞いた方がよく理解できると考えられるから。
 - 2 村田さんが考えたプロジェクトの内容は、残った種の写真を見ながら聞いた方がよく理解できると考えられるから。
 - 3 村田さんが考えたプロジェクトの長所は、異なる立場からの意見と関連付けて話した方が伝わりやすいと考えられるから。
 - 4 村田さんが考えたプロジェクトの内容は、もともになった活動の長所の直後に話した方が伝わりやすいと考えられるから。

2 三	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	78.5 (+5.1)	0.2 (-0.1)
全国 (公立)	73.4	0.3
正答	1	

出題の趣旨

自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができているかどうかをみる。

解答結果より

自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができている。話の順序を入れ替えることで、村田さんの考える「つなごうマリープロジェクトの長所」が、聞き手にとって理解しやすくなることを捉えることができている。

野洲市中学生の課題が見られた問題

[illegible]

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい

「開かれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「二 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においては、どのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

島崎藤村「二人の兄弟」より出題

3 四	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	17.6 (+0.5)	32.3 (+5.2)
全国 (公立)	17.1	28.1
正答例	(例) 読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 榎木の 実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。	

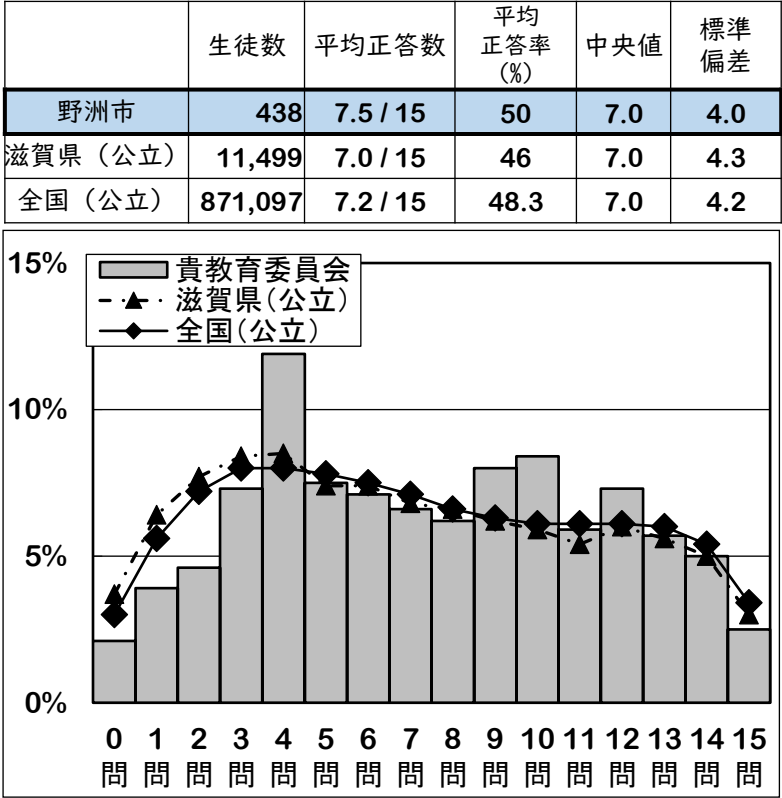
出題の趣旨	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。
解答結果より	文章の展開が、どのような効果をもたらすのか、自分の考えを文章の内容を適切に取り上げて説明することに課題が見られた。

問題作成のポイント	<p>学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈が重視された。今年度は、今後の学習において活用される基礎的・基本的な知識及び技能や、その知識及び技能が、生徒が問題解決をしていく過程でどのように用いられているかについて明確にして問題が出題された。</p> <p>●生徒が目的意識をもって数学的に問題発見・解決する過程を遂行することに配慮して問題が出題された。</p> <p>●学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容がバランスよく出題された。</p>
-----------	---

＜分類・区分別集計結果＞

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			野洲市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領の領域	A 数と式	5	45.1	41.9	43.5
	B 図形	4	50.1	45.0	46.5
	C 関数	3	45.8	45.6	48.2
	D データの活用	3	62.1	57.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	56.7	53.0	54.4
	思考・判断・表現	6	39.9	36.7	39.1
問題形式	選択式	3	52.9	52.2	54.0
	短答式	7	55.5	50.8	52.0
	記述式	5	40.5	37.0	39.6

＜中学校の数学の正答数分布グラフ＞



野洲市中学生の

正答率が高かった問題

＊全国と比較して

2

オレンジの果汁が40 %含まれている飲み物があります。この飲み物 a mL にオレンジの果汁は何 mL 入っていますか。 a を用いた式で表しなさい。

2	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	62.1(+10.2)	3.7(-3.6)
全国 (公立)	51.9	7.3
正答	0.4a (mL)	

出題の趣旨	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。
解答結果より	数量を文字を用いた式で表すことができていると考えられる。

野洲市中学生の課題が見られた問題

8 A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。



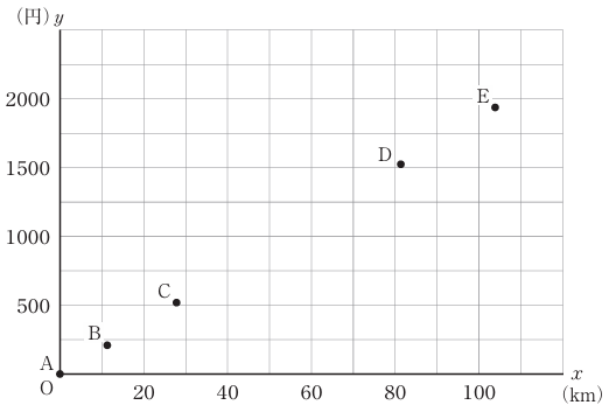
歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくく感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離をx km、A駅からの運賃をy 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点のx座標とy座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。

A駅からの走行距離と運賃のグラフ



(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0 kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

8 (2)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	36.3 (-1.7)	37.9 (+2.9)
全国 (公立)	38.0	35.0
正答例	(例) 点Aから点Eをもとに、直線のグラフをかき、x座標が60のときのy座標を読む。	

出題の趣旨	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
解答結果より	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がみられた。

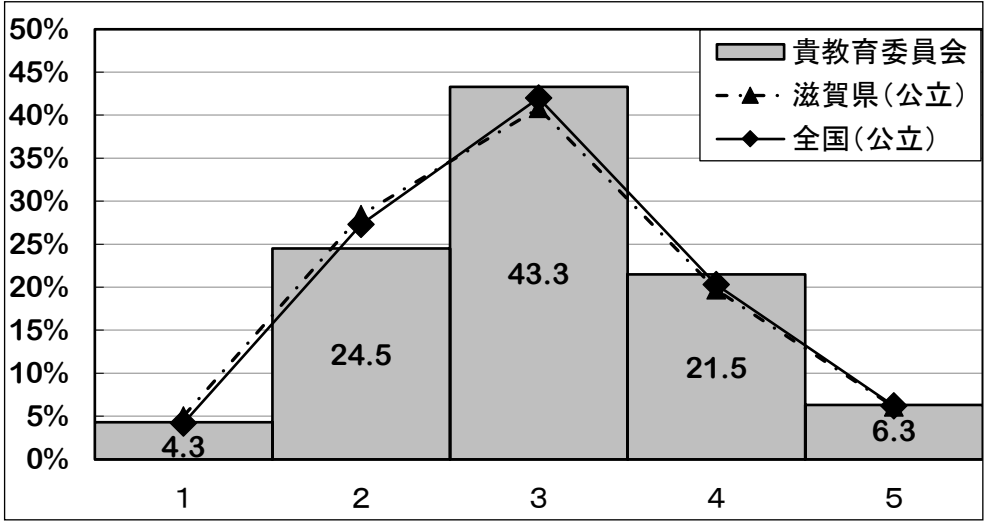
問題作成のポイント	<p>学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「日常生活や社会の文脈における事象の中から問題を見いだして課題を設定し、探究の過程を通して課題を解決すること」についての問題が作成された。今年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「知識・技能」では、自然の事物・現象に関する「事実的な知識」と「知識の概念的な理解」及び観察、実験の「技能」に関する問題が出題された。 ●「思考・判断・表現」では、科学的な探究の過程において自然の事物・現象に関する知識を活用することで、思考力、判断力、表現力等を把握する問題、科学的な探究の方法や理解に関する問題が出題された。
-----------	--

<分類・区分別集計結果>＊非公開問題を除く

分類		区分	対象 問題数 (問)
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	5
		「粒子」を柱とする領域	8
	B区分	「生命」を柱とする領域	5
		「地球」を柱とする領域	5
評価の観点		知識・技能	10
		思考・判断・表現	12
問題形式		選択式	15
		短答式	1
		記述式	6

<中学校理科の生徒の分布グラフ>

	生徒数	平均IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値		
				25%	50%	75%
野洲市	441	508	123.9	432	490	580
滋賀県（公立）	11,634	498	127.5	415	489	570
全国（公立）	864,634	503	124.0	422	495	572

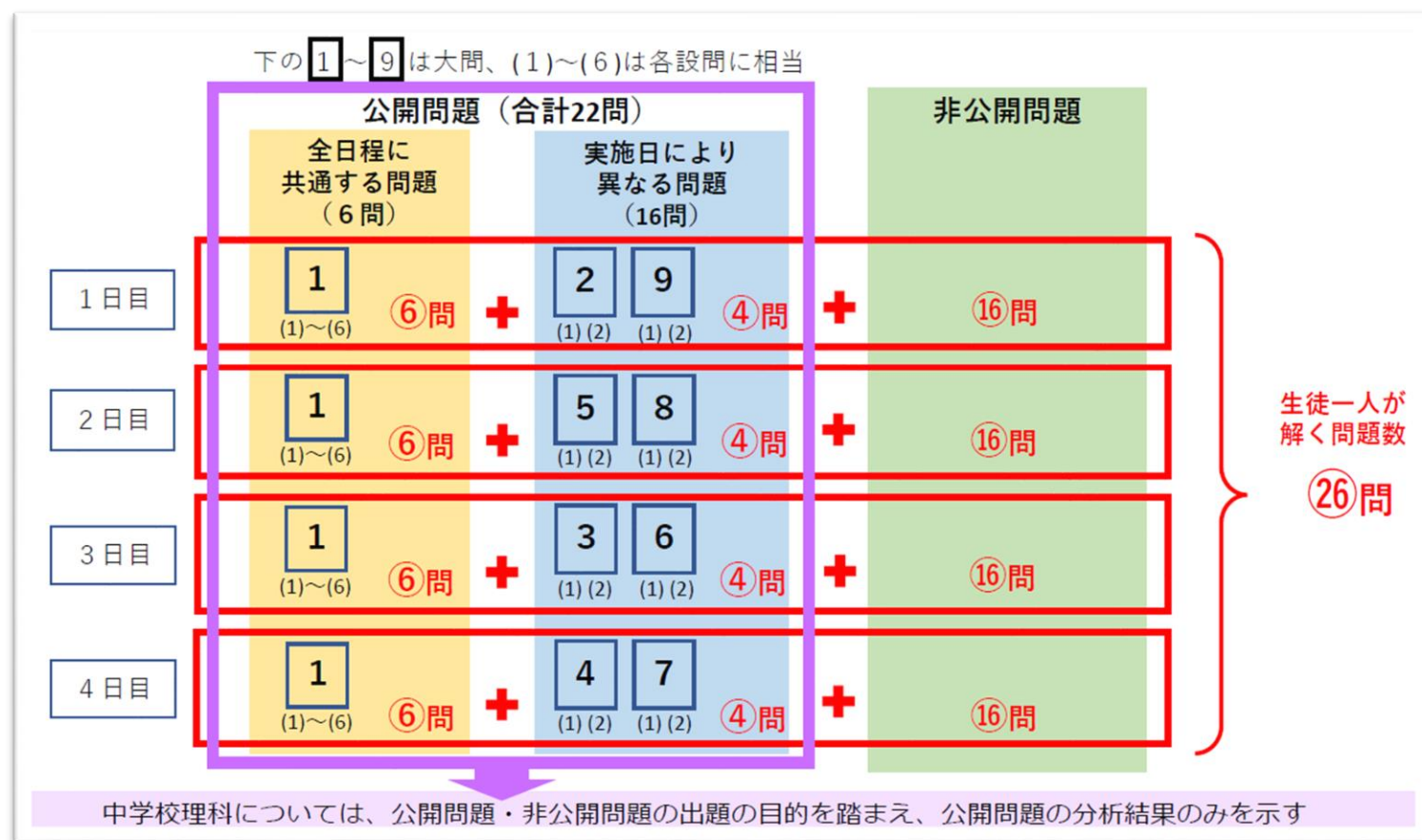


IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）
 グラフ内数値は野洲市の値（％）

問題の構成

公開問題と非公開問題を組み合わせて出題。生徒1人あたり公開問題10問と非公開問題16問を解く構成となっている。

- 公開問題には全日程に共通する問題と実施日別の問題があり、いずれも学習指導の改善に向けたメッセージの発信も目的とされている。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題されており、生徒ごとに異なる問題を解いている。国や自治体等の状況を把握することが主目的とされており、個々の問題の内容や結果は示さない。



野洲市中学生の

正答率が高かった問題

＊全国と比較して

湿度センサーが内部にあり、センサーに流れる電流の大きさによって湿度を測定していることが分かりました。

オームの法則が成り立つのかな。

調べて分かったことから、仮説を立てて、実験を計画しましょう。

【仮説】

図 1 の回路で実験を行ったとき、回路の中の湿度センサーには、オームの法則が成り立つ。

図 1

(1)

【仮説】が正しい場合、どのような結果が得られればよいか、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

☐

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.0	1.5	2.0

☐

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	0.5	1.0	1.5

☐

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	1.5	1.5	1.5

☐

電圧の大きさ (V)	0.5	1.0	1.5
電流の大きさ (mA)	3.0	1.5	1.0

3 (1)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	62.1 (+10.2)	3.7 (-3.6)
全国 (公立)	51.9	7.3
正答	電圧の大きさ(V) 0.5 1.0 1.5 電流の大きさ(mA) 0.5 1.0 1.5	

出題の趣旨	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる。
解答結果より	電圧の大きさが大きくなると、電流の大きさも大きくなり、電圧の大きさと電流の大きさは比例の関係にある。このことから、仮説が正しい場合の結果を適切に予想できていると考えられる。

野洲市中学生の課題が見られた問題

1

理科の実験で使用する水について考える

理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。

精製水は、右図のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸留する方法でつくられることが多いです。

電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。

より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。

同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。

1Ω 1Ωの電熱線
5Ω 5Ωの電熱線

課題を設定する

【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？

課題は、
() にしようと思います。

(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

1 (2)	正答率 (%)	無解答率 (%)
野洲市	40.6 (-5.6)	9.1 (+1.1)
全国 (公立)	46.2	8.0
正答例	(例) 水道水と精製水の性質にはどのような違いがあるか。	

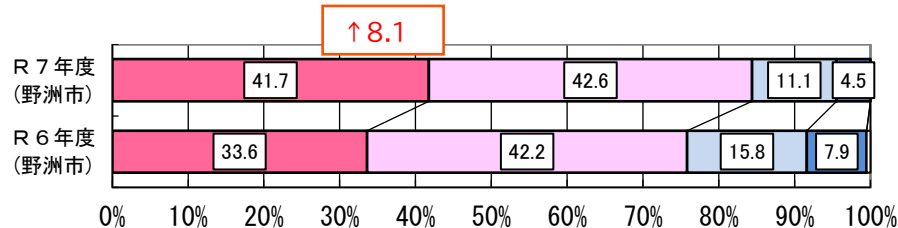
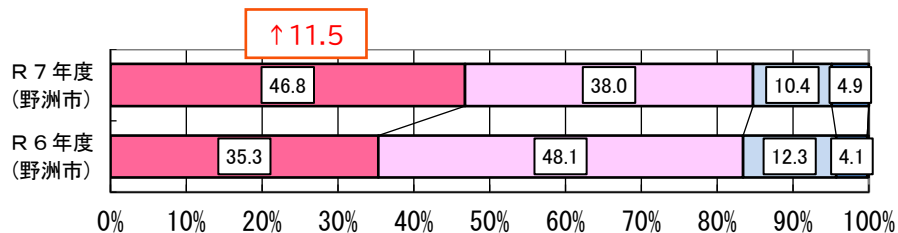
出題の趣旨	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる。
解答結果より	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するために課題を設定し、表現することに課題が見られた。

■ 当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまる
 ■ どちらかと言えば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない

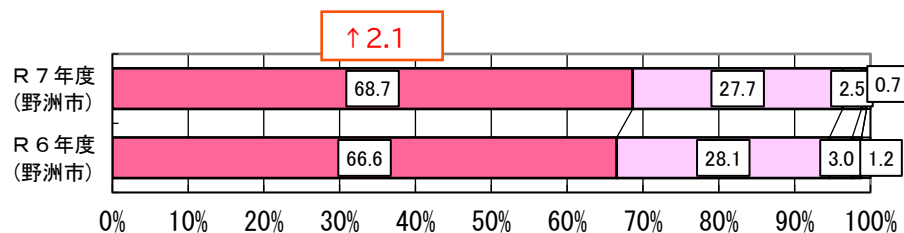
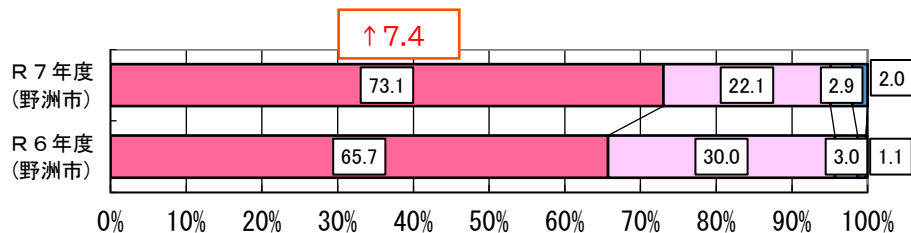
小学校

中学校

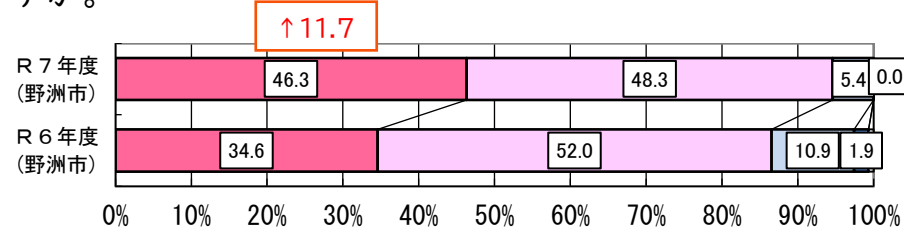
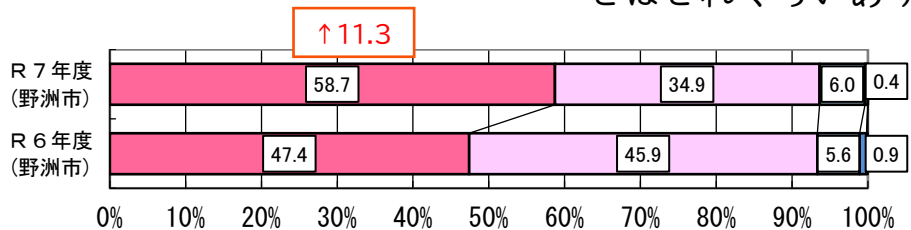
①自分にはよいところがあると思いますか。



②人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



③普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



調査結果より

非認知能力に関わる①～③の質問項目では、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」を合わせた割合が小中学校ともに、昨年度と比べて増加している。特に「**当てはまる**」と回答した割合に**顕著な伸び**が見られる。

当てはまる

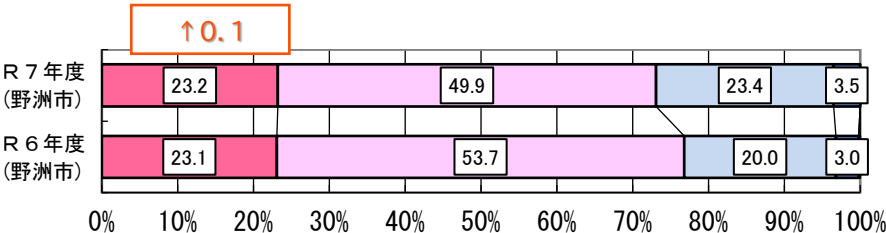
どちらかと言えば、当てはまる

どちらかと言えば、当てはまらない

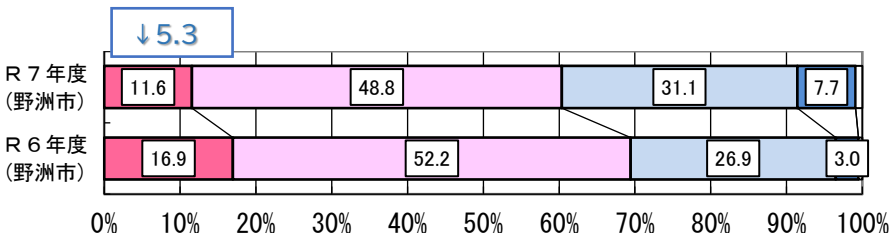
当てはまらない

小学校

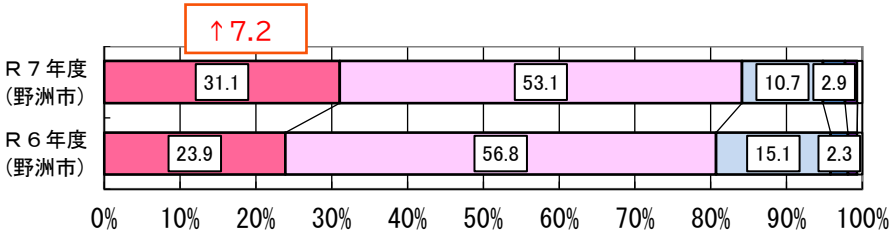
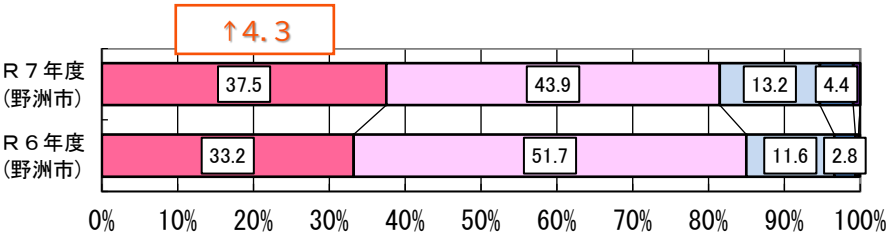
④授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



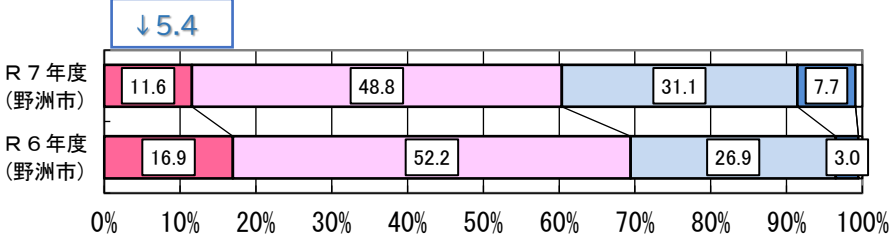
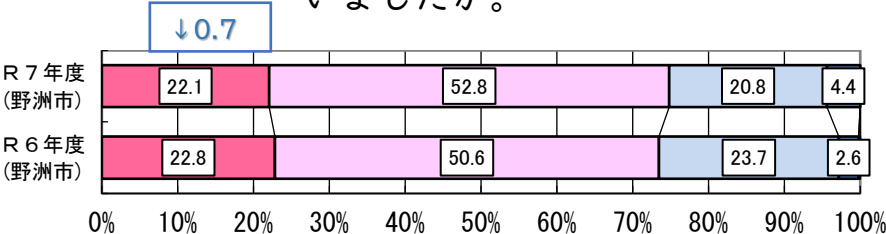
中学校



⑤学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



⑥各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



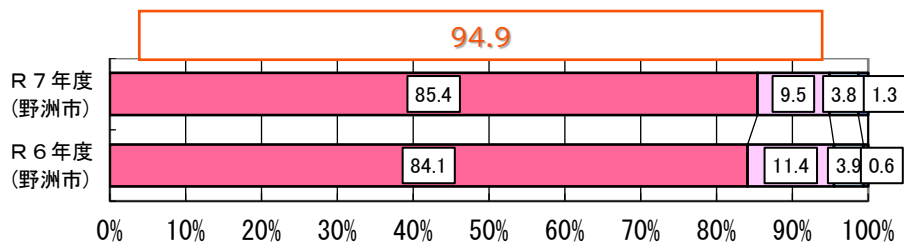
調査結果より

授業・学習に関わる④～⑥の質問項目では、⑤の質問項目で「当てはまる」の割合が昨年度と比べて増加している。このことから、「協働的な学び」を意識した授業が実践されているといえる。しかしながら、④⑥の質問項目では、「当てはまる」の割合はほとんど変化がないか、減少している。

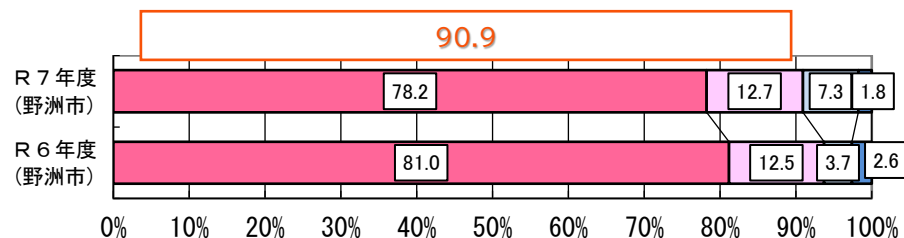
■ している
 ■ どちらかと言えば、している
 ■ あまりしていない
 ■ 全くしていない

小学校

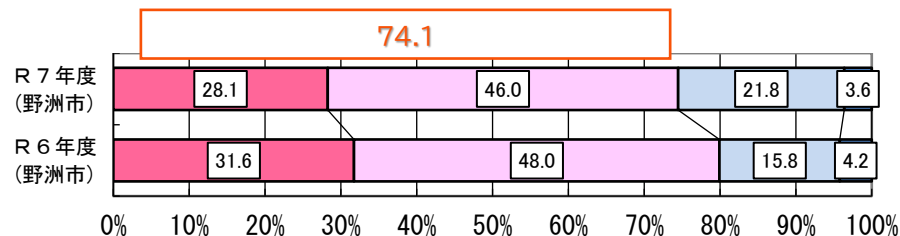
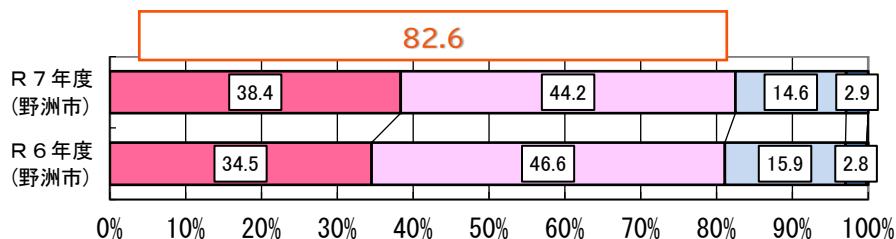
⑦朝食を毎日食べている。



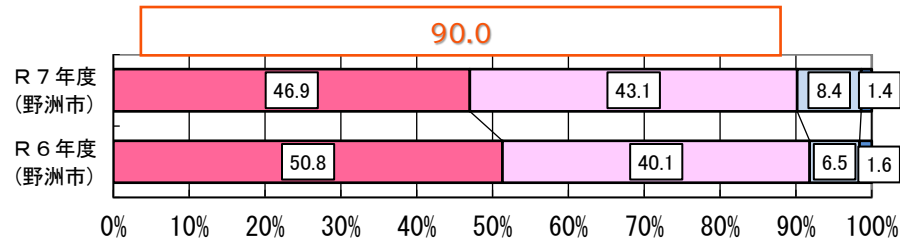
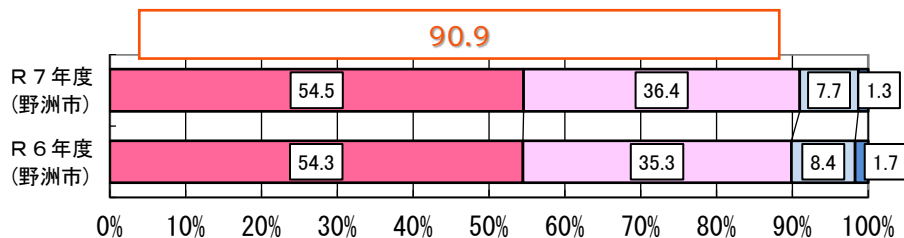
中学校



⑧毎日、同じくらいの時刻に寝ている



⑨毎日、同じくらいの時刻に起きている



調査結果より

生活習慣に関わる質問項目のうち、⑦⑨では小中学校ともに、肯定的な回答の割合が90%を超えており、昨年度と同程度であった。⑧の質問項目を昨年度と比較すると、肯定的な回答は小学校ではほとんど変化がないか、中学校では5.5ポイント減少している。

調査結果
全体より

- ▶教科の調査問題から、いずれの教科・校種においても学習指導要領の**知識・技能に関する問題の正答率が高い傾向**にあり、基礎的な知識・技能の力は一定程度身に付いていると考えられる。一方で、**思考・判断・表現に関する問題に課題**が見られる傾向がある。
- ▶非認知能力に関する質問調査から、小中学校ともに、昨年度と比べ「**当てはまる**」の回答割合に**大幅に増加する項目**があった。
- ▶授業に関する質問調査から、小中学校ともに、**協働的な学びを意識した授業が実践されている**ことが分かる。一方で、**主体的な学びや自分の考えをまとめることの肯定的な回答割合の増加は見られなかった**。
- ▶生活習慣に関する質問調査から、小中学校ともに、朝食摂取、起床時間は昨年度並みの回答結果で、大きな変化は見られなかった。一方で、中学校の就寝時間については、昨年度よりも「している」「どちらかと言えば、している」の回答割合が減少した。



取組のポイント

1. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- ▶教科の調査問題の結果や授業に関する質問調査の結果から、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めることが重要である。①単元の目標からの単元構想、②児童生徒がワクワクする課題設定、③「読み解く力」の「再構築」を重視した学習活動、④自らの学びを振り返る時間の確保、⑤効果的なICT機器の活用を意識的に行う。

2. 目指す子ども像を意識した児童生徒への指導・支援

- ▶児童生徒の非認知能力を育成するために、児童生徒の「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」ことを意識することが一層重要である。挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、個と集団への働きかけを、各校の目指す子ども像に照らし合わせて意識的に行う。